

昨年12月から、縮小社会研究会に参加しています。縮小社会研究会は、2008年発足と  
のことですが、これまでこの研究会の研究会・講演会にも同じような外国での運動に関するも  
のは無いようです。

問題はグローバルであり、当然海外にもこのような運動は有る筈であり、「同じこと」を議論  
しているとも思われるので、調査する必要・メリットはあると思いインターネットを辿って調査  
した内容を紹介します。

#### <手法>

(1) インターネット上でキーワードでGoogle検索し、ヒットした内容を辿る。  
関連する語句が出現すれば検索語に加えて対象を広げてゆく（人名・組織名等も対象）。  
例：degrowth, postgrowth, postdevelopment,.....

(2) カテゴリー分け等によりまとめる。  
今回は以下にカテゴリー分けしてまとめてみた。

degrowth (脱成長) : デクロワサンス/「croissance」に否定辞を付けた新語。日本  
語の「脱」成長よりは否定の意味は強いようです。

代表的な運動と思われるので別項で紹介する。

economy (経済) : 本来外環境（地球 or エコシステム）のサブシステムである経済  
システムを閉じたものとして扱うことの問題が指摘されている。

environment (環境・エコロジー) : 環境・エコロジーは検索語としては「運動」  
をピックアップするには広すぎるかもしれない。

common (共有) : On the Commons 等。化石燃料・水等の資源は本来共有されるべき  
ものである。

ethics (倫理)

happiness (幸福)

technological optimism (技術的楽観) : Techno-Fix (書名)

greens : Global Greens、The Greens | European Free Alliance

(3) 手法の問題点

- ・一般的な単語からでは「運動」をピックアップするのが難しい。
- ・サイトの内容を読む、把握には時間がかかる。
- ・また、翻訳に時間がかかるので、「紹介」が困難。

## <Research and Degrowth のサイトの内容紹介>

Research & Degrowth はラトウーシュらの関わる活動で

- ・ 代表的なアクティビティと思われる
- ・ Degrowth の簡単なヒストリーと運動の位置、Degrowth と関連する他の運動などが纏まっていると思うので Definition と short-history の部分を日本語にしてみました。  
(グーグルの自動翻訳をもとに、概ね意味が通じるように手を加えたものです。なお、下線と [...] は私が追加したもので、日本語の句、単語の後の () 内に原文英語を付加した部分があります

### Research and Degrowth>Definition(<http://www.degrowth.org/definition-2>)

#### Definition

持続可能な脱成長は、人の幸福を増し地球上の生態的条件と平等性を高める、生産と消費のダウンスケーリングである。

それは、開かれた、地域的な経済と新しい形の民主的体制を通じてより均等に分配された資源による社会が存続する未来を見通す。

このような社会では、もはや “成長か死か” ではない。

素材の蓄積は、もはや人口の文化的想像の一等地に位置を保持しません。

「効率優先」は「満足」に関心の焦点が移り、革新の関心の焦点は技術のための技術ではなく、私たちが共愉 (コンヴィヴィアリティ) 的に質素に生きることを可能にする新たな社会と技術的な取り決めに集中する。

脱成長は国内総生産 (GDP) を包括的な政策目標とすることに挑戦するだけでなく、生産と消費をより低く持続可能なレベルへの変換するための枠組み人間の協力と生態系のためのより多くのスペースを残す経済システムの縮小(a shrinking of the economic system) を提案する。

### Research and Degrowth >Short history (<http://www.degrowth.org/short-history>)

#### short-history

脱成長のアイデアのいくつかは、何世紀にもわたって哲学的議論の一部となっている。私たちは、ギリシア人と傲慢の批評[the critics of hubris、hubris はギリシャ語のヒュブリス=破滅へと導く、現実を無視した過剰な誇りや野心]に脱成長の源を遡ることができるかもしれない？ バレルに入ったディオゲネス[プラトンと同時期の哲学者で奇行の逸話で知られるらしい]は、早期脱成長の支持者の一人であった可能性があります。単語 Décroissance は (フランス語の脱成長) はローマクラブの報告書「成長の限界」に続いていくつかのフランス語の出版で 70 年代に初めて登場した (ジョージエスクレーゲン 1979 年、ゴルツ 1977 年、アマル、1976 年)。

しかし Décroissance はフランスでは 2001 年、イタリアでは 2004 年 (Decrescita)、カタルーニャ (スペイン) では 2006 年 (Decreixement と Decrecimiento) になって活動のスローガンになりました。

英語の用語 'Degrowth' は、2008年のパリにおける最初の脱成長カンファレンスで受け入れられ、カンファレンスは学術研究分野と国際市民社会の議論として「脱成長」の開始となった。

一見すると、脱成長も主流メディアで、社会の中で議論されている考え方であり、我々は利害に関係しない政治レベル (disinterested political level) のままであれば、通常考えられていたよりはるかに多くの支持を受ける。

明示的に脱成長のための既存のグループとネットワークの集まりがあります。

実務家、活動家や研究者が複数のレベルや次元で、行動・協同があります。

いくつかの労働組合と政治運動 (または政党) のようないくつかの組織には、積極的に脱成長を支援する少数派があります。

次に人々や集団から成るはるかに大きいグループがあり、両方が運動の台頭と概念化に貢献して、その行動の地平として脱成長を採用している。

これは以下の領域を包含する

アグロエコロジー [<http://www.agroecology.org> 参照] の分野、

環境正義 [The term environmental justice emerged as a concept in the United States in the early 1980s.]、

環境紛争や領土の防衛 (インフラ、土地投機に対する...)、

[土地投機の部分の原文は real state speculation ですが意味からすると → real estate speculation = 土地投機の間違い綴りミスではないかと推測する]

ネオ rurals (neo-rurals)、[Neorural は英語のページは余り出てこない]

クリティカルな消費 (critical consumption)、

国際協力 (international cooperation)、[具体的には何を指すのかわかりません]

連帯経済 (solidarity economy)、

現地通貨 (local currencies)、

為替市場 (exchange markets)、[具体的には何を指すのかわかりません]

フェミニズム、

エコを含む村 [eco-villages = Ecovillages are intentional communities with the goal of becoming more socially, economically and ecologically sustainable. ]、

do it your-self、

reclaim the fields and the streets、

代替モビリティ (自転車、...)、

都市の庭園 (urban gardens)、

非暴力と平和主義 (non-violence and pacifism)、

反広告、

予防や代替医療、...

同盟のための大きな潜在力が存在する。

脱成長の動きは、以下のような他の動きと北で相互作用する

Indignados (outraged)、

Occupy Wall Street (オキュパイウォールストリート)、

智恩T o w n (Transition Towns)

[参考ページ <http://ourworld.unu.edu/jp/transition-totnes-plans-for-energy-descent/>]

包括民主主義 ( Inclusive Democracy)、

パーマカルチャー (Permaculture) ...

同様に、南の運動

良い生き方 (Buen Vivir)、

悪いの環境保護 (Environmentalism of the Poor)、

文明の危機 (Crisis of civilizations)、

ビア・カンペシーナ (Via Campesina) [スペイン語で「農民の道」]

などに連絡者を見つけている。

#### <今後>

最初にふれたように、海外での状況には無関心ではいられないと思います。

個人的は今回の作業は継続し、情報を共有する状態にはしたいと思っています。

以上